

## 聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

### 三位一体

→ ① 神の創造に反映されたデザインの一貫性

「神の、目に見えない本姓、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです」

(ローマ人1：20、下線付加)

\*下線部は、欽定訳聖書では「神格、神、神性（Godhead）」と訳され、三位格の神に言及

### 大自然、一神の創造—に非常に多く見られる「三位一体」構成

被造物、被造物の構成に共通性、類似性が見られるのは当然、唯一の創造者のデザインを反映

#### ☆太陽

私たちに関わる三つの現象

1. 地球に及ぼす、途方もなく大きな力、引力
2. この世を照らす光
3. 地球への放射熱

#### ☆水の分子 H<sub>2</sub>O

生物が地上で生活する上で必須な「水」

二個の水素原子と一個の酸素原子で構成

「息」の意の「聖霊」は酸素の役割に該当、空気中の「酸素」は生物が生きるに不可欠な要素

#### ☆原子

原子は、三つの基本的な粒子、—陽子、中性子、電子—で構成

これら三粒子は、自然界のすべての物質の基礎的要素

#### ☆光

太陽からの白い光は、「光の三原色」—基本となる色、赤・緑・青—で構成

#### ☆火

火は、存在するために三要素が必要

1. 熱
2. 燃料
3. 酸素

#### ☆人の構成物質

神が人類創造に用いられたのは、三つの物質 創世記2：6-7

1. 水
2. 地のちり
3. 生命の息

#### ☆人の構造

神の御姿に似せて造られた「人」の三機能、三部構成

1. 物理的な身体
2. 霊の身体
3. 魂 (1. と 2. を支配)

#### ☆循環する大自然の生態系

1. 生産者
2. 消費者
3. 解体者

## 聖書

## ☆生物が棲（生）息する異なった環境

1. 陸
2. 空
3. 海

## ☆水の三態

1. 氷（固体）
2. 水（液体）
3. 水蒸気（気体）

## ☆DNA

三部構成の核酸

1. リン酸
2. デオキシリボース（五炭糖）
3. 塩基

このように、神ご自身の存在形態、神のデザイン「三位一体」は被造界に満ちている

## 詩篇 110 篇

→ **4** メシヤ預言

メシヤの詩篇 マタイ 22 : 43-45、マルコ 12 : 36、ルカ 20 : 42-43、使徒の働き 2 : 34-35 ほか  
キリストの神性を告げている非常に意義深い詩篇

二つの大段落（1、4 節）は神ヤーウエの言葉で始まり、各段落は同じ内容を平行して叙述  
テーマ：

王が祭司職に（1 節）、また、永久の祭司王として（4 節）指名され、民（2 節）と敵（5 節）とを支配し、支配下にある者の献身的な従順（3a 節）とご自分の統治の世界的な広がり（6 節）を喜ぶ

## 1-3 節 祭司職に着く王（ヤーウエの右の座の権威）

：1 「主は、私の主に仰せられる。『わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは、わたしの右の座に着いていよ』（下線付加）：

敵に象徴されるすべて否定的なものが王の足下に置かれる

厳粛なヤーウエの神命：ダビデの血筋の王メシヤをご自分の右の座に着かせる

メシヤは一定のときの間だけ、右の座に着かれる

⇒メシヤは神として「ダビデの主」、人として「ダビデの子」

キリスト、パリサイ人たちが畏にかけようとしたとき、ご自分がだれの子であるかとの質問をされ、彼らが「**ダビデの子です**」と答えたのに対し、引用されたのがこの箇所

マタイ 22 : 41-45

：2 「主は、あなたの力強い杖をシオンから伸ばされ、**あなたはあなたの敵の真中で治めるであろう**」（下線部 NIV）：

ヤーウエの支配はシオンから

支配はヤーウエの代理人の「王」によって拡張され、その支配は「あなたの敵の真中」へと、5、6 節に描かれているように力強く広がっていく

：3 「**あなたの群れは、あなたの戦いの日に喜んで仕えるであろう。聖なる威厳で陣立てされて、夜明け前の胎から、あなたは、あなたの若さの朝露を受けるであろう**」（NIV）：

聖なる奉仕のために聖められ、聖なる装束を身にまとった「祭司たち」に伴われた王を描写

→3 節は、4-7 節に描かれている「平定された敵に伴われた祭司王」に対応

「**夜明け前の胎**」（NIV）：

露の源を暗示している表現、王が超自然的に天に由来することを示唆

「**あなたの若さ**」（NIV）：

力みなぎるメシヤ、再臨の主がシオンで全地を治めることを描写 イザヤ書 2 : 2-3

⇒エルサレムはついにこの世の政府の中心となる

## 聖書

## 4-7節 とこしえの祭司王

⇒「王なる祭司」昇格のとき到来！

- ：4 アロンの血筋による祭司ではなく、王であり、いと高き神の祭司としての役割がメシヤによって成就される ヘブル人 5: 6
- ：5 「あなたの右にいます主は…」：  
「ヤーウェ」がご自分の「王なる祭司」の右に立たれ、援護される！  
今や権威の地位を、「王なる祭司」が占められる
- ：6 「…広い国を治めるかしらを打ち砕かれる」：  
挑戦する者がだれもいないとこしえの統治をメシヤが樹立 イザヤ書 9: 7
- ：7 「頭を高く上げられる」：  
主の主権と征服のしるし

## 神の右の手、右の座

「主は、私の主に仰せられる…わたしの右の座に着いていよ。」(詩篇 110: 1、下線付加)  
「主、LORD」はヤーウェ、「私の主、My Lord」はダビデの血筋の子孫メシヤ  
この神命が与えられたとき、メシヤは、神の御旨とご計画の中ですでに存在していたが、この世にはまだ誕生しておられなかった ローマ人 4: 17  
キリストは地上におられたときも、いつも神であった  
キリストを通して神が物理的な身体で姿を顕された

しかしながら、キリストは永久に「御子」ではない！

☆詩篇 110 篇で、神は、「わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは」(下線付加)と、「一定のとき」を示唆された

「わたしの右の座」は、第二の地位に言及、今にも起こる昇格を含蓄

☆用語「右の座」は祭司職用語で、キリストは、祭司として、神と人との仲介の役割を担われた用語に表されているのは、執り成し手、仲介者、祭司としてのキリストの役割

☆キリストは「右の座」からいつ、どこに昇格されるのか？

唯一の答えは、「神の御座」そのものへの昇格

今日キリストはまだ次期王位継承者としての役割を天上で担っておられる ヘブル人の手紙 2: 5-8

☆キリストはすべての敵を征服される時、「勝利を得る者をわたしとともにわたしの座に着かせよう。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである」

(黙示録 3: 21、下線付加)と、約束された

敵を足下に置くまでのキリストの役割を象徴する「右の座」は御子の座

その後、キリストは「父の御座」に着かれ、それを「勝利を得る者」と分かってくる

☆キリストの地上での御働きは、キリストが神であることを証しするものであった

ヨハネ 9: 7、: 32-33、11: 43-45、14: 9、マルコ 4: 39-41ほか

☆もし、キリストが神であるなら、道理が通る解釈は一つ

「キリストは初めから終わりまで神、ヤーウェご自身である」という以外にない

☆ヨハネ 1: 1 は「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった」

(下線付加)と明確に記しており、また、トマスがキリストに向かって信仰告白を表明した言葉

「私の主。私の神」(ヨハネ 20: 28)は、キリストが神であって初めて意味を成す

ヨハネ 3: 34、14: 10ほか

⇒聖書は非常に明確に、キリストが神であると語っている

☆コロサイ人の手紙 1: 19、2: 9 は「…神はみこころによって、満ち満ちた神の本質を御子のうちに宿らせ」、「キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています」

(下線付加、下線部はともに Godhead、「三位格の神」に言及)と告げている

すなわち、神のすべてがキリストの中にあつた

聖書

御子の役割が、神に同化されるとき<sup>の到来</sup>

キリストは敵を従わせた後、低い地位から本来のご自分に戻られ、人類の贖い主として君臨される  
 黙示録 20 : 11-14、ヨハネ 16 : 25-27、コリント人第一 15 : 24-28

神なるキリストが「人」であることの奥義

キリストは人格を備えた神であり、人で、キリストの神性と人間性を切り離すことはできない  
 神の愛、「受肉」の深い奥義を、人間の限られた理解にとどめてはならない テモテ第一 3 : 16

すべてキリストが行われたことは、人としての神の顕れで、身体をとって姿を顕された神は、  
 罪を赦し、被造界への権威を示された マタイ 8 : 23-27

弟子たちは、神の言葉『ヘブル語聖書』を通して知っていた神ヤーウェの本質のほとんどすべてを  
 キリストが全うされたのを経験、まさにキリストは、福音を信じる者を滅びから永遠の救いへと導  
 いてくださった唯一真の神であった コリント人第一 15 : 1-4

⇒ヘブル語聖書での神の宣言と、新約聖書の宣言は、完全に一貫

ベツレヘムで、おとめマリヤより生まれた赤子は、「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、  
 平和の君」(イザヤ書 9 : 6、これらの称号はまさに神ご自身の称号!)、神であった

『不死の者が死ぬこと』の可能性

即答は、不死の方だけが、生命を起し、絶たせることができる

神は三位格の神でお一人、死んだのは、第二位格の神、一神であり人であるキリスト—であった

「死」は隔離の状態、無意識の状態ではない ルカ 16 : 22-24

信じる者は死後、肉の身体から解放され、霊魂の状態<sup>で</sup>キリストとともに「パラダイス」にいる  
 ルカ 23 : 43、コリント人第二 5 : 8、ピリピ人 1 : 23

→ 2 神の視点、神の次元

異なった次元から…

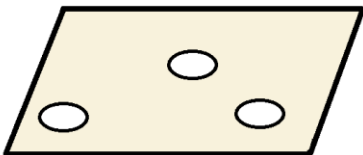
キリストと神との関係 —単純な描写を通して考察—

二次元の世界、一縦横の平面だけの世界、平地—に生きていると想定

この平地に三つの大きな同心円がある

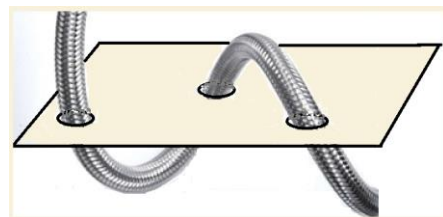
互いに離れて存在し、明らかに全く別の、しかし、同じ大きさ、同等の円

ある日、預言者がこの平地を訪れ、「これら三つの円は一つである！」と宣言



人々はその預言者を「つじつまの合わないことを言う！」と  
 あざけり、狂人呼ばわりする

そこで、預言者は、大きな管、一三次元構成の管—を捻じ曲げて、各々の丸い穴に差し入れ、  
 三つの円を連結する



人々、連結された三つの円が「一本の管」の一部であることを認める

⇒より高い次元から現象を見ると、低次元からは見えない実態が明らかになる

## 聖書

## 神の次元で解明される聖書の逆説

神が、限られた次元のこの世にご自身を顕されるとき、私たちは明らかな「逆説」に直面する。聖書は、逆説、背理に満ちている、このこと自体、聖書が次元のはるかに高い、次元の束縛を超越した方、神による、神が源の書であることを証し「三次元+時間」（四次元）の世界に生きている私たちに、それ以上の次元から与えられる神の啓示が、逆説、一神の視点から初めて、道理が通る多くの現象解釈— に満ちているのは当然

—上記の描写は、限られた次元に生きている私たちがこの世では、神ご自身を理解することがいかに難しいかの図示—

## 宇宙の特異点

昨今、「ブラックホール」とか「ビッグ・バン」など、ユニークすぎて、理解し、判断することが、一般の現在人の能力を超えていることについて、よく語られる

ある物理学者による「宇宙創造の考えられるシナリオ」

- \* 初めに、十次元の時空が自発的に、文字通り何も無いところから勃発
- \* 最初は、宇宙空間は混とんとして荒れ狂っていた
- \* ある地域では、輪郭は必然的に力の競合が生み出した巨大な反発作用であった
- \* その結果、三次元空間が加速度的な勢いで拡張を始め、他方で、残りの次元は自発的に七つの領域（天空）へと転がっていった

このように昨今の物理学は、人間が感知できない次元の存在を認めている

三次元（高次元）では合体した一つの管が、二次元（低次元）では、別個の円としてしか現れないこと、また、各々の円は、高次元の実体のほんの側面、異なった現れにすぎないことを、図示を通して学んだ

使徒パウロはこのことを、「今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には、顔と顔とを合わせて見ることになります。今、私は一部分しか知りませんが、その時には、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知ることになります」（コリント人第一 13：12、下線付加）と語った

これは、キリストこそヤーウェご自身であることが完全に明らかにされる「とき」への言及である

## キリストの途方もない主張

キリストは明確にご自分をヤーウェに等しくされたために、ユダヤ人指導者たちの、神冒瀆との反感を買った レビ記 24：15-16

☆キリストは、ご自身が天の生命の源であると言われた ヨハネ 6：48、：51

☆キリストは永久に生きておられると主張された ヨハネ 17：5、：24

☆キリストは神の愛を、悩みの多いこの世の人たちに示すため、人となられ、人々が神をよりよく理解し、神が必要であることに気づき、求めるようになることを願われた

☆「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません」（ヨハネ 14：6）と言われたとき、「神」の代わりに「父」という表現を用いられたキリストは、地上での最後の「仮庵の祭り」のときに、「…あなたがたがわたしを知っていたなら、わたしの父をも知っていたでしょう」（ヨハネ 8：19）とも言われた

☆キリストは、究極的にすべての諸国民をご自分の前に集め、天の栄光で、御座に着かれる王として、ご自身を描写された マタイ 25：31-34、ヨハネ 18：37

☆しかし、人間史において、自らを神と等しいと主張したすべての者たちの中で、ただ一人キリストの主張だけが、この世に真剣に捉えられ、しかもキリストを最初に信じたのは、三年半、キリストと起居をともにした弟子たち、唯一の神を信じるユダヤ人であった！

申命記 4：35、：39、6：4-9

キリストを通して、ご自身を顕された唯一真の神は今、あなたの目が開かれ、キリストを神として受け入れる決断をすることを、願っておられます！